

辻堂駅西口周辺地区まちづくりニュース（第7号）

平成17年9月 赤松町地区まちづくり協議会 発行
事務局：茅ヶ崎市 都市部 都市政策課

カントク跡地整備（藤沢市）の計画が進んでいます。

新たに誕生する街の愛称が『湘南C-X』（湘南シークロス）に決定しました。

カントク跡地に誕生する新たな街の愛称を3月25日から5月13日まで一般から公募していましたが、全国から1,675件の多数の応募がありました。
6月16日と7月7日に愛称委員会において、様々な観点から審査・選考した結果、

『辻堂C-X』（辻堂シークロス）

が最優秀賞に選ばれました。

◇最優秀賞（1点）

『辻堂C-X』（辻堂シークロス）、高田圭さん（所沢市在住）

「C」は、City、Culture、sea を表し、「X」はCross を意味する（辻堂の「辻」も表している）。複合的を意味する Complex を頭と尾だけに省略したのものである。湘南の海（sea）に代表される自然、文化（Culture）、都市（City）が、辻堂にてクロス（Cross）し、発展するようにと名づけました。（本人記載）

◇優秀賞（1点）

『湘南クロスタウン』、森崎隆さん（長野県東御市在住）

◇佳作（3点）

『湘南ICLtown』（湘南アイクルタウン）、村越友吉さん（藤沢市辻堂元町在住）

『湘南ツジリア』、桐本圭三さん（二宮町在住）

『フロンタル湘南』、松岡綾花さん（辻堂小学校2年生）

（優秀賞の枠は2点でしたが、該当作品は1点しかありませんでした）

この結果を基に、主催者である関東特殊製鋼（株）、独立行政法人都市再生機構、藤沢市の3者で協議した結果、

- ・今後の企業誘致活動を全国的に進めるにあたり、全国的なネームバリューのある「湘南」を使用したい。
- ・広域的な都市拠点形成がまちづくりの大きな柱であることから、相模川以東の近隣地域を代表する名称として「湘南」を使用したい。

等々の理由により、街の愛称として実際に使用する際には

『湘南C-X』（湘南シークロス）

を用い、広報活動や各種印刷物等に広く使用することになりました。

※詳しくは藤沢市のホームページ（下記URL）等をご覧ください。

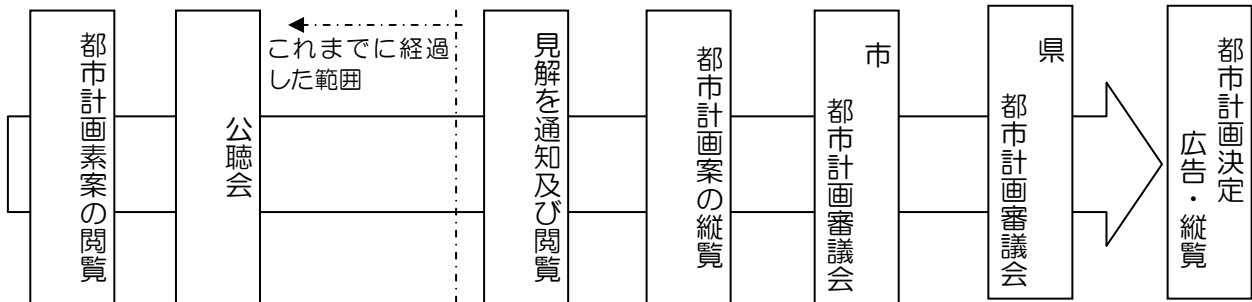
<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/tujitosi/page100019.shtml>

「都市計画決定」へ向けての取り組みが進められています。

今年の12月頃までには都市再開発方針や都市施設、公園、土地区画整理事業、地区計画などの「都市計画決定」を行う予定で、必要事項の検討・調整などの取り組みが進められています。

「都市計画決定」とは、都市計画を一定の手続きにより決定することで、都市計画が決定されると都市計画制限が働き、定められた土地の区域に関係する権利者などの権利に一定の制限が加えられます。また、計画の区域や構造などが決定します。

■都市計画手続きに関する主なスケジュール



まち開きは一部平成20年度からの予定です。

都市緊急再生整備地域の指定を踏まえ、スピードと迅速性を持って、官民協働で都市再生事業を推進するために、平成17年度中のまちづくりに必要な都市計画決定手続きを終了した後、平成18年度から都市再生事業（基盤整備事業とまちづくりマネジメント検討）に着手し、平成20年度には一部まち開きを目指しています。

■事業スケジュール

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
①都市計画等諸手続き						
・都市計画手続き、事業認可手続	■■■					
・区画整理、都市基盤 (道路・公園)	■■	■■■	■■■ 国庫補助金対応	■■■	■■■	
・地区計画(再開発等促進区)	■■	■■■	■■■	■■■	■■■	
②基盤施設事業						
・開発区域内基盤	□□□ 調査・設計等	□■■	■■■ 工事	■■■		
・開発区域外基盤	□□□ 調査・設計等	□■■	■■■ 工事	■■■		
・JR駅機能強化		□□□ 調査・設計等	■■■	■■■ 工事	■■■	
・その他事業			□ 調査	□□□ ・設計等	■■■	■■■ 工事
③マネジメントの体制づくり						
・辻堂駅周辺地区整備計画調整委員会	■■■	■□□	□□□	□		
・地域まちづくり会議	■■■	■□□	□□□	□		
・開発協議会	■■■	■■■	■■■	■■■	■	
・タウンマネジメント組織			■■■	■■■	■■■	■■■

まちづくり協議会において、計画の概要について説明がありました。

市境道路については、3案の断面構成案が示されました。また、土地利用の計画案などが示されました。

〈市境道路案〉

○1案

現在の道路幅員8mに、カントク跡地のセットバック部分を歩道状空地として2m確保する。

○2案

車道幅員を6mとして、茅ヶ崎市側に2mの歩道を設置し、カントク跡地側に歩道状空地2mを確保する。

○3案

車道幅員を6mとし、カントク跡地側にセットバック部分の歩道状空地2mと合わせて合計4mの歩道を確保する。

〈土地利用計画〉

○産業関連機能ゾーン

既存産業機能の存続・再配置を行い、研究開発施設や産学官の連携機能の集積により産業の高度化を図る。

○広域連携機能ゾーン

新しい都市拠点に相応しい広域連携を視野に入れた、行政サービス機能や文化・教育機能などの都市機能の集積を図る。

○医療・健康増進機能ゾーン

高度先端医療機能を核に、健康・予防関連機能、医療ビジネスの集積を図る。

○複合都市機能ゾーン

Aゾーン：駅前立地を活かした業務・商業・住宅・アミューズメントなどの複合都市機能の導入を図る。

Bゾーン：西側に隣接する住宅地との調和に配慮した住宅などの導入を図る。

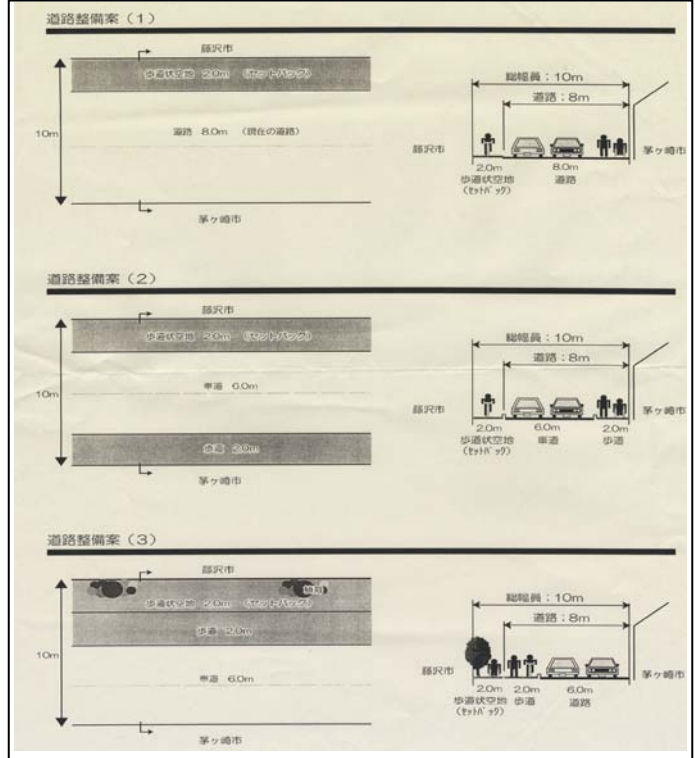
○交通結接機能ゾーン

駅南北の連携や交流を促進するために、駅機能・駅前広場の機能拡充を図る。

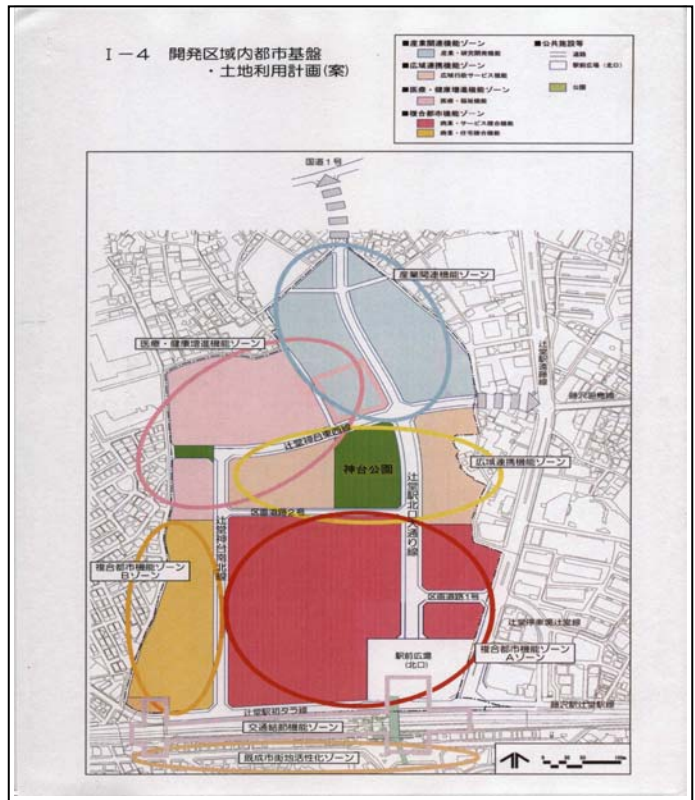
○既成市街地活性化ゾーン

南北交流を促進し、既成市街地の機能更新により活性化を図る。

■市境道路の断面構成案



■都市基盤と土地利用計画計画案



赤松町地区まちづくり協議会では、重点整備地区計画と基盤施設の検討を進めます。

カントク跡地整備と連動する基盤施設の検討を行います。

計画が進むカントク跡地計画と連動する基盤施設については、早急の方針を定める必要があるため、重点的に検討します。検討する範囲は以下の通りです。

- ①辻堂駅西口駅前広場
- ②市境道路
- ③辻堂駅西口自由通路及びペDESTリアンデッキ

地区の将来のための重点整備地区計画を策定します。

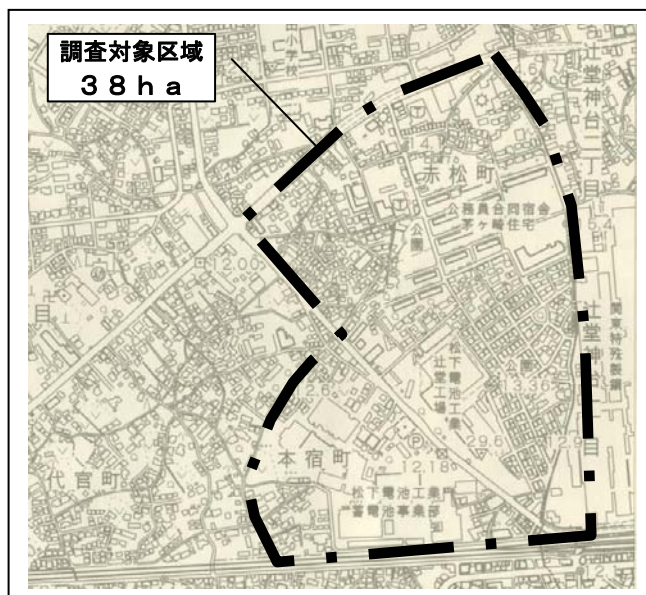
平成16年度に地区整備の基本計画を策定しましたが、カントク跡地に隣接する赤松町では、今後急速な都市化が進むと考えられるため、将来のために基本計画より詳細な重点整備地区計画の検討を行います。

重点整備地区計画では、将来的な土地利用や基盤施設整備計画の検討を行います。検討する内容と範囲は、以下の通りです。

■ 検討の内容

- ①地区の現況及び課題の整理
- ②地区整備方針の検討
- ③土地利用計画の検討
- ④道路整備計画の検討
- ⑤関連施設の検討
- ⑥整備手法の検討
- ⑦整備計画のとりまとめ

■ 重点整備地区の対象範囲



■平成17年度 赤松町地区まちづくり協議会メンバー

[会 長]	柳 平 吉				
[協 議 委 員]	網 井 敏 江	石 井 三 夫	上 村 正 子	浦 田 禎	大 野 明 雄
	大 宮 茂 人	橘 田 昌 幸	田 島 末 彦	渡 辺 昌 子	
	稲 垣 総 一 郎	小 沢 慶 子	金 子 早 苗	寺 口 成 美	平 木 正
	稲 毛 俊 郎	篠 田 歳 隆	藤 崎 繁	程 島 音 次	程 島 忠 治
	森 谷 昭 二	水 島 康 雄			
[事 務 局]	茅ヶ崎市都市部都市政策課				
[コ ン サ ル タ ン ト]	ランドブレイン株式会社				

辻堂駅西口周辺地区のまちづくりについて、ご意見・ご要望はこちらまで

連絡先：茅ヶ崎市 都市部 都市政策課

TEL：0467-82-1111(内線 2503) FAX：0467-57-8377

E-mail：toshiseisaku@city.chigasaki.kanagawa.jp